

検疫の歴史(年表) 九州特別編 船舶

文政	安政	明治															大正			
1822	1858	1873	1877	1879	1881	1882	1885	1890	1891	1894	1895	1896	1897	1899	1900	1903	1904	1920	1922	1926
<ul style="list-style-type: none"> 長崎でコレラが発生し国内に蔓延、わが国最初の大流行となる(患者・死者十数万人) 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎でコレラが発生し国内に蔓延、2回目の大流行となる(患者・死者数十万人) 	<ul style="list-style-type: none"> 「暴瀉(ぼつしゃ) 病予防規則」を制定する (コレラに関するわが国最初の検疫規則で、各国公使と協議し、同意を得たが、公布に至らず) 	<ul style="list-style-type: none"> 「虎列刺(コレラ) 病予防法心得」を公布する (船舶に対する検疫及び国内流行時の地方一般の予防法を定める) 	<ul style="list-style-type: none"> 「海港虎列刺病伝染病予防規則」を公布する(最初の統一された検疫規則) 長崎県地方検疫局及び船舶消毒所を設置する 	<ul style="list-style-type: none"> 赤間関港(現在の下関)に地方検疫局を設置する(関門港における検疫の始まり) 	<ul style="list-style-type: none"> 「虎列刺流行地方より来る船舶検査規則」を公布する (海港検疫法が施行されるまで、本規則により外国船にも実質的な検疫が行われる) 神奈川県でコレラが発生し、関東地方、東北地方へと広がり、大流行(患者5万1,631人、死者3万3,784人) 	<ul style="list-style-type: none"> コレラ大流行に対応して「下ノ関消毒所」を設置する 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎県でコレラが発生し、大流行する(患者4万6,019人、死者3万5,227人) 	<ul style="list-style-type: none"> 「海外港より来る船舶に対し検疫の件」を公布する (コレラ流行地以外でも内務大臣が指定する外国諸港から来港する船舶に対して検疫が行われるようになる) 	<ul style="list-style-type: none"> 北里柴二郎がペスト菌を発見する (患者の隔離と検疫・上下水道整備などの「伝染病予防法」の成立に寄与する) 赤間関港及び門司港において船舶のペスト検疫を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 広島県でコレラが大流行する(患者5万5,144人、死者4万154人) 日清戦争時、帰還する軍用船検疫のため「彦島臨時陸軍検疫所」として下ノ関消毒所を陸軍が一時使用する 	<ul style="list-style-type: none"> 「赤間関検疫所」及び「女神検疫所」と改称する パネル①② 内務省告示第33号により赤間関及び長崎の地方検疫局を 	<ul style="list-style-type: none"> 「伝染病予防法」を公布する 志賀潔が赤痢菌を発見する 	<ul style="list-style-type: none"> 「海港検疫法」を公布する (海外来航する船舶に対する恒常的検疫制度の確立) (コレラ、ペスト、黄熱、猩紅熱、痘そつを検疫対象疾患として定める) 神戸市でペストの国内初感染事例が確認され、兵庫県及び大阪府へと広がる 門司港に「臨時海港検疫所」を設置する 	<ul style="list-style-type: none"> 「海港検疫所官制」が改正され、「門司港検疫所」が内務省直轄機関として発足する (下ノ関消毒所を管理下におく) 	<ul style="list-style-type: none"> 福岡県正救部(現在の北九州市門司区)大里に「臨時陸軍検疫所」を設置し、日露戦争における軍用船舶検疫を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> (患者2,163人、ペスト菌保有ねずみ2万1,353頭) 神戸市でペスト患者1人、大阪市でペスト菌保有ねずみ1頭の発見されに1910年までペストが流行する 	<ul style="list-style-type: none"> 神戸市でコレラが発生し、わが国最後の大流行となる 	<ul style="list-style-type: none"> 「海港検疫法施行規則」を一部改正する (虎列刺をコレラに改め、汚染船舶に対する消毒方法等の措置として昆虫等の駆除を追加する) 	<ul style="list-style-type: none"> 「国際衛生条約」に署名する

昭和

1927	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1956	1959	1962	1963	1967	1969	1970	1974	1975	1976	1977	1978	1980	1987
<ul style="list-style-type: none"> 「航空検疫規則」を公布する(「コレラ、ペスト、痘そつを検疫対象疾患として定める」) 	<ul style="list-style-type: none"> 地方引揚援護局を設置する(引揚援護局により引揚検疫を開始する) 博多港に「博多引揚援護局検疫所」、鹿児島港に「鹿児島援護局検疫所」を設置する 	<ul style="list-style-type: none"> 「引揚検疫に対する一般検疫規則」を公布する(日本に出入りする人、航空機、船舶の遵守すべき検疫規則を設定する) 	<ul style="list-style-type: none"> 「検疫所官制」を公布する(検疫所は厚生大臣の管理に属し、海港及び空港における検疫及び防疫に関する業務を行う) 厚生省直轄「門司検疫所」「長崎検疫所」となる 集団引揚が一段落したため博多引揚援護検疫所を閉鎖する しかし、GHQの覚書により、博多港と鹿児島港を日本船舶のみの入国港として指定する 	<ul style="list-style-type: none"> 「博多検疫所」及び「鹿児島検疫所」を設置する <p style="text-align: center;">パネル③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「厚生省組織規定」を公布する(検疫所の名称、位置を別表で定め、検疫所に庶務、検疫、衛生の三課を置く) 	<ul style="list-style-type: none"> 朝鮮動乱により年間500余隻の米軍船舶の検疫を実施する(当時、外航船舶は主に韓国からの小型船舶100隻未満) 	<ul style="list-style-type: none"> 「海港検疫法と航空検疫規則を一本化する」(船舶及び航空機に対する検疫制度が確立される) (「コレラ、ペスト、黄熱、痘そつ、発疹チフス、回帰熱を検疫対象疾患として定める」) 	<ul style="list-style-type: none"> 国際衛生規則に定める検疫制度に即応するために、検疫所支所長及び出張所長の権限を検疫所長と同様にする等大幅に検疫法を改正する 	<ul style="list-style-type: none"> 最初の統一された検疫規則「海港虎列刺病伝染病予防規則」の公布日(7月14日)を検疫記念日と定める 	<p style="text-align: center;">パネル④⑤⑥⑦⑧⑨⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> 香港から博多港に入港した「墨湖号」よりコレラ保菌者2名発見。関門港へ翌日回航 釜山から唐津港に入港した「成山号」よりコレラ保菌者4名発見する 釜山から三池港に入港した「銀洋丸」よりコレラ保菌者1名発見する 麗水より関門港に入港した「第六大栄号」よりコレラ保菌者1名発見する 釜山から関門港に入港した3隻の船舶よりコレラ保菌者計4名発見する 	<ul style="list-style-type: none"> 津久見港に入港した「昭瑞丸」よりコレラ保菌者1名を発見。関門港へ2日後回航 津久見港に入港した「富洋丸」よりコレラ保菌者3名を発見。関門港へ2日後回航 博多港に入港した「Hong Kong Bear号」よりコレラ保菌者2名発見。関門港へ同日回航 台湾高雄港から関門港へ入港した「平島丸」よりコレラ患者3名、保菌者2名を発見する 台湾高雄港から関門港へ入港した「御影丸」よりコレラ患者3人、保菌者18人を見出す 	<ul style="list-style-type: none"> 西ドイツ及びユーゴスラビアでマールブルグ病が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ナイジェリアでラッサ熱が発生する 釜山から関門港に入港した3隻の船舶よりコレラ保菌者各1名ずつ(計3名)発見する 三陟から関門港に入港した「第二十一濟東号」よりコレラ保菌者1名発見する 	<ul style="list-style-type: none"> 無線検疫制度を創設する 麗水から博多港に入港した「第一泰昌号」よりコレラ保菌者1名発見。韓国帰港のため同日出港 韓国各地から関門港に入港した7隻の船舶よりコレラ保菌者各1名ずつ(計7名)発見する 	<ul style="list-style-type: none"> 痘そつ輸入例(日本最後の輸入例) インドを経て帰国した日本人患者を東京都町田市で発見する 	<ul style="list-style-type: none"> インド(マドラス)から関門港に入港した「鯨光丸」よりコレラ患者3名発見する 	<ul style="list-style-type: none"> スーダン(現・南スーダン)及びザイール(現・コンゴ民主共和国)でエボラ出血熱の流行が確認される フィリピン(イリガン)から関門港へ入港した「三高丸」よりコレラ患者5名発見する この患者の隔離が、門司検疫所彦島措置場における最後の収容患者である 	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県有田市を中心とした地域にコレラ患者が発生する(患者、保菌者99人、1人死亡) 	<ul style="list-style-type: none"> 東京・池之端コレラ事件が発生する (原因は輸入生鮮魚介類と考えられ、1都9県に及ぶ集団発生となった) コレラ汚染地域を国内に持つ国からの生鮮魚介類の検疫を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> WHOが天然痘根絶を宣言する(最終患者から3年経過し新たな患者発生無し) 	<ul style="list-style-type: none"> ラッサ熱患者をシエラレオネ帰国者から1人発見する

平成

1994	1995	1996	1997	1998	1999	2002	2003	2004	2006	2007	2008	2009	2011	2012	2013	2014	2015	2016
<ul style="list-style-type: none"> インドでペストが流行する（ペストに対する検疫を強化する） 	<ul style="list-style-type: none"> バリ島でコレラが大流行する （バリ島帰国者からコレラ保菌者を発見。37都道府県で300人近くに達する） 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫伝染病から「痘そつ」を削除する 	<ul style="list-style-type: none"> 博多検疫所が「福岡検疫所」となる（門司、長崎及び鹿児島が福岡検疫所の支所となる） 	<ul style="list-style-type: none"> 「検疫伝染病」を「検疫感染症」に改称する 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫感染症にエボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、マールブルグ病、ラッサ熱を加える 	<ul style="list-style-type: none"> 中国で重症急性呼吸器症候群（SARS）が発生する （2002年11月から2003年7月までの間に、8,098人が感染し、774人が死亡） 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫感染症に重症急性呼吸器症候群（SARS）、デング熱、痘そつ、マラリアを加える 	<ul style="list-style-type: none"> 福岡港湾合同庁舎の老朽化等のため現庁舎に移転 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫感染症に鳥インフルエンザ（H5N1）を加える 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫感染症に南米出血熱を加え、コレラ、黄熱、重症急性呼吸器症候群（SARS）を削除する 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫感染症に新型インフルエンザを加える 	<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカで新型インフルエンザ（豚インフルエンザ）が発生する （2009年4月から11月までの間に、62万人以上が感染し、7,800人以上が死亡） 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫感染症にチクングニア熱を加える 	<ul style="list-style-type: none"> サウジアラビアで中東呼吸器症候群（MERS）が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫感染症に鳥インフルエンザ（H7N9）を加える 西アフリカでエボラ出血熱が流行する （2013年12月から2016年1月までの間に、2万8,637人が感染し、1万1,315人が死亡） 	<ul style="list-style-type: none"> 検疫感染症に中東呼吸器症候群（MERS）を加える 東京都代々木公園においてデング熱の国内感染事例が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> 韓国で中東呼吸器症候群（MERS）が流行する （2015年5月から11月までの間に、韓国国内で185人が感染し、38人が死亡） 	<ul style="list-style-type: none"> WHOがジカウイルス感染症の流行について「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言する 検疫感染症にジカウイルス感染症を加える